

# 文化財で振り返る取手の歩み



県指定有形文化財長禅寺三世堂

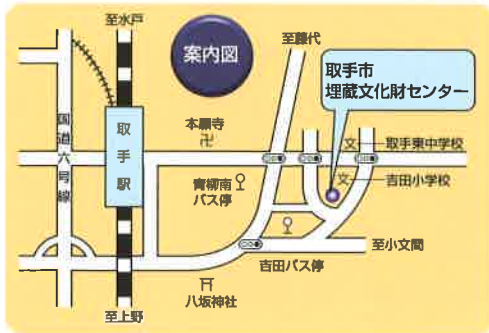


県指定史跡大日山古墳

## 平成17年 7月19日[火]—9月16日[金]

午前10時～午後4時30分  
(入館は4時まで)

**入館無料** / 休館日 月曜日



### 交通

取手駅東口から大和交通バスで吉田下車、  
または関東鉄道バスの龍ヶ崎、光風台行きで  
青柳南下車、藤代・光風台方面からは関東鉄道  
バスの取手駅東口行きで青柳南下車、いずれ  
からも徒歩約10分 駐車場あり



江見水蔭著「地底探検記」  
(筑波大学附属図書館所蔵)



国指定重要文化財龍禅寺三仏堂



県指定史跡本多作左衛門重次墳墓

## 開催にあたって

取手市内には、国指定重要文化財の龍禅寺三仏堂をはじめ数多くの県指定・市指定の文化財があります。市では、所有者・管理者をはじめ関係者の皆様のご理解とご協力をいただき、国や県とともにその保存と活用に努めているところです。また指定されていなくても、私たちの祖先から守り伝えられた貴重な文化財も、数多くあるところです。

これらの文化財は、私たちの祖先が厚い信仰心や絶え間ない努力によって、現在にまで伝えてきたものです。そして私たちは、未来に向かってこれらの文化財を、子孫に伝えてゆかなくてはならない責任と義務を負っているといえましょう。

今回の企画展では、市内の五つの文化財を取り上げることにより、これらの文化財が守り伝えられてきたことを広く知っていただければと考えています。ご観覧の皆様には、今後とも市の文化財保護につきまして一層のご理解とご協力をたまわるとともに、忌憚ないご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回の企画展の開催にあたりまして、ご協力をたまわりました皆様に深甚なる謝意を表して、開催のあいさつとさせていただきます。

平成17年7月

取手市埋蔵文化財センター

### 講演会

「平将門 史実と伝説」

講師 村上春樹氏  
(元千葉県立関宿城博物館客員研究員)  
日時 9月3日(土)  
午後1時30分から3時まで

### 公開講座(取手市郷土史研究会と共催)

「よみがえる三仏堂」(三仏堂修理記録ビデオの  
上映を含む)  
講師 埋蔵文化財センター職員  
日時 8月20日(土)  
午後1時30分から3時まで

### 文化財講座

「昭和戦前期の県指定史跡と取手」

講師 埋蔵文化財センター職員  
日時 8月6日(土)  
午後1時30分から3時まで

講演会、各講座とも定員40名、当日受付順

### 展示説明

7月23・24日、8月7日・21日、9月4日 午後2時から  
8月6日・20日、9月3日 午前11時から

## 例言

1. このパンフレットは、平成17年7月19日から9月16日まで開催される取手市埋蔵文化財センター第16回企画展「文化財で振り返る取手の歩み」にともない、発行されたものです。
2. この企画展の企画とパンフレットの執筆・編集は、当センター職員の飯島章と文化芸術課の本橋弘美が担当し、その他職員の協力を得ました。
3. パンフレット中の文化財散策コース案内図は、当センター職員の宮内良隆が作成しました。
4. この企画展の開催にあたり、次の方々からのご協力とご助言をいただきました(敬称略)。記して深く感謝の意をあらわします。

赤羽直一、飯田栄、海老原千義、海老原恒久、桐村久美子、小西雅徳、榊原正法、捧潔、重松和男、田中督人、外松恵、根本彰、蓮池廣一、野口幸子、廣瀬篤、前野茂、山崎英太郎、領塚正浩  
会津若松市教育委員会、秋田市立千秋美術館、板橋区立郷土資料館、茨城県立歴史館、延命寺、太田市教育委員会、上高津貝塚ふるさと歴史の広場、児玉町教育委員会、成身院、市立市川考古博物館、曹源寺、袖ヶ浦市郷土博物館、長禅寺、筑波大学附属図書館、取手市立山王小学校、南山大学人類学博物館、日本人類学会、弘前市教育委員会、弘前市立博物館、本願寺、松戸市戸定歴史館、密蔵院、有限会社山主飯森本店、蘭庭院、龍禅寺

# 1.考古学史に名を残す中妻貝塚

中妻貝塚が、はじめて考古学会に紹介されたのは、明治25年(1892) 発刊の『東京人類学会雑誌』72号に掲載の若林勝邦氏の「余ガ発見セシ下総、常陸ノ貝塚」です。ここで中妻貝塚は、「下総国北相馬郡小文間村ビシヤモン境内」の貝塚と記載されています。明治30年に東京帝国大学理科大学人類学教室で編さん・出版された日本最初の遺跡地名表である『日本石器時代人民遺物発見地名表』には、「北相馬郡小文間村貝塚」と載せられています。

明治36年には、小説家で考古学愛好家・遺物採集家としても名高い江見水蔭が、小文間を訪ね石皿の破片を採集しています。この話は、明治40年に出版された水蔭の著作『地底探検記』(写真は表紙にあります)に、書かれています。この本と『探検実記地中の秘密』・『考古小説三千年前』は、水蔭の考古学三部作といわれ、血沸き肉踊る文章は、考古学という新しい学問を人びとの間に広めました。

大正3年(1914)には東京人類学会の遠足会で、中妻貝塚の発掘が行なわれています。この遠足会にも、江見水蔭は参加しています。大正15年と昭和2年(1927)の2回にわたって、大山史前学会による発掘が行なわれましたが、これが最初の本格的調査とされています。

昭和26年には、オランダ人のジェラード・グロート神父の主催する日本考古学研究所は、中妻貝塚をかなり大規模に発掘しています。グロート神父は昭和6年に来日、日本の考古学に興味を持ち、布教活動のかたわら発掘を行ない学会などに参加していました。戦時中は一時抑留されましたが、戦後すぐの昭和21年に千葉県市川市に日本考古学研究所を設立し、千葉県北部・茨城県南部の縄文時代の遺跡を発掘し、報告書を刊行するなど積極的な活動を展開していました。



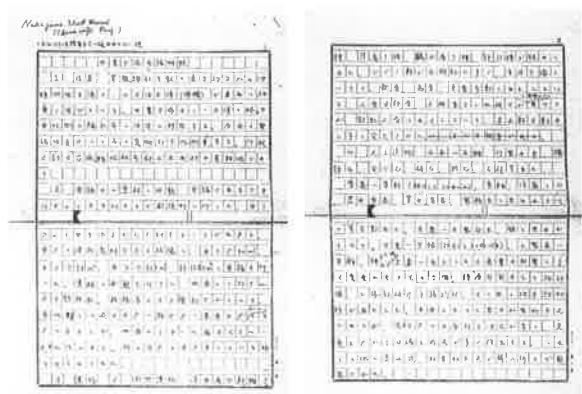
大正3年11月15日の中妻貝塚での東京人類学会遠足会の写真(『人類学雑誌』29巻12号口絵、茨城県立歴史館所蔵)



大山史前学会が中妻貝塚から発掘した土器(『史前学雑誌』1巻1号口絵、筑波大学附属図書館所蔵)



ジェラード・グロート神父(左端、吉田格「先史学者G・グロート師」『考古学論究』創刊号、写真提供 市立市川考古博物館)グロート神父のとなりは江坂輝弥氏、右端は吉田格氏です。江坂氏・吉田氏とも著名な考古学者です。



ジェラード・グロート神父の中妻貝塚発掘略報(南山大学人類学博物館所蔵)3枚のうち2枚です。展示では複製資料を使用します。

# 2.大日山古墳と仏嶋山古墳の県史蹟指定運動

岡台地とその麓に、古墳群があります。現存する古墳は一基、消滅した古墳が三基です。他にも古墳があったの言い伝えはありますが、完全に消滅してしまふ場所さえもまったくわかりません。

昭和10年(1935)、地元山王村では山王村史蹟保存会を結成して、台地上にある大日山古墳と麓にある仏嶋山古墳を、県の史蹟にしてもらえるようにとの願書を、安藤狂四郎茨城県知事に提出しています。そして昭和14年には、



大日山古墳のみが県の史蹟に指定されました。

先の県史蹟指定の願書によれば、大日山古墳は平将門の愛妾<sup>きまよ</sup>桔梗御前の墓と伝えられています。もちろん年代的には合いませんが、将門の伝説や信仰が反映されていると考えられます。昭和63年に周溝部の発掘調査が行なわれましたが、埴輪など古墳に関係する遺物は発見されませんでした。

仏嶋山古墳は、先の願書には将門の墓とされ、やはり将門の伝説や信仰と深くかかわっています。明治28年(1895)には古墳は開墾され、土は学校建設予定地に運ばれました。この時に多数の埴輪が出土し、石棺が発見されました。石棺からは、人骨・刀剣・勾玉・矢鏃などが発見され、同30年に東京の帝室博物館(現東京国立博物館)に納められました。さらに昭和8年にも岡堰の工事のために土が削られ、古墳は消滅しました。出土品は、翌9年に同じく帝室博物館に納められています。



昭和14年5月建立の大日山古墳碑(左)と  
昭和50年11月建立の祭礼記念碑(右)



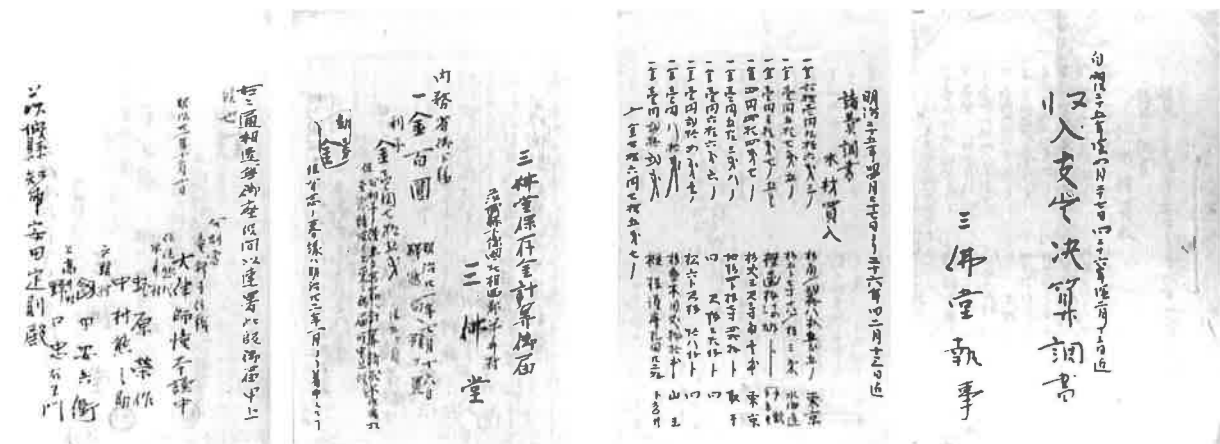
現在の仏嶋山古墳跡

### 3.中世建築の龍禅寺三仏堂

市内米ノ井には、国指定重要文化財の龍禅寺三仏堂があります。伝説によれば、平将門が三仏堂に武運長久を祈願に訪れた時に、井戸から米が噴き出したそうです。将門は、これは大変にめでたいことだと慶び、以後このあたりを「米ノ井」と名付けたとのこと。山号の米井山<sup>べいせいざん</sup>も、この伝説に由来しています。何れにせよ、三仏堂が将門伝説と深く結びついていることがわかります。

実際の三仏堂は、室町時代の終わり頃(16世紀初め)の建築とされています。江戸時代の中頃と後期に修理が行なわれています。明治21年(1888)には当時の内務省から保存金100円が交付され、同24年から26年にかけて修理が行なわれました。この修理では、周囲に新たに支柱を立てて建物を支えるとともに、外壁を設けて傷んだ建物を保護することにしました。明治24年に総予算550円で開始された工事は、最終的には1320円もかかりましたが、龍禅寺や檀家の人びとの努力により、明治26年11月には落慶式が挙行されました。大正の終わり頃から屋根の修理が計画され、昭和に入ると浄財の募集が開始されています。昭和25年頃にも屋根の葺き替えが行なわれ、同47年には県の有形文化財に指定されました。同49年にも屋根が葺き替えられ、外壁も一部修理されました。

昭和52年には国指定重要文化財となり、同60年から61年にかけて、建物をいったん解体して再び組み立てる



明治21年12月10日 三仏堂保存金計算御届(龍禅寺所蔵)

明治25年旧4月27日から明治26年旧2月13日  
三仏堂修繕費収入支出決算調書(海老原千義家文書)

「解体修理」が行なわれました。こうして三方に裳階<sup>もこし</sup>をめぐらした創建当初の三仏堂の姿を、私たちは目にすることができるようになりました（修理直後の写真は、表紙にあります）。

大正十五年十二月日  
三佛堂屋根修繕  
寄付金芳名簿  
坂升山

昭和二年一月二十五日  
三佛堂屋根修繕  
寄付金受取証  
海老原千義家文書



昭和60年からの解体修理前の三仏堂

大正15年12月  
三仏堂屋根修繕  
寄付金芳名簿（海老原千義家文書）

昭和2年1月25日  
三仏堂屋根修繕  
寄付金受取証（海老原千義家文書）

#### 4. さざえ堂形式の長禅寺三世堂

JR取手駅東口からすぐの高台に長禅寺はあります。伝説によれば、平将門が勅願所として承平元年（931）に創建したとされています。龍禅寺同様に、将門ゆかりの寺院といえましょう。

南側にある石段を登り山門をくぐると、正面に県指定有形文化財の三世堂があります（写真は表紙にあります）。外観は2層ですが内部は3層で、1層目には坂東三十三か所、2層目には秩父三十四か所、3層目には西国三十三か所の各観音札所の本尊の写し計百体が安置してあります。堂内は上り専用と下りの専用の階段があり、順路に沿って進めば、人の流れが途中で交差することなくお参りできるさざえ堂形式になっています。

「長禅寺地方用録」によると、宝暦13年（1763）に建てられたお堂が寛政2年（1790）の台風で大損害を受け、享和元年（1801）に再建されたとあります。しかし現在のようなさざえ堂形式の建物は享和元年に建てられたもので、宝暦13年の建物は普通のお堂だったようです。

明治33年（1900）から35年にかけて修理が行なわれ、基礎を固めなおして柱を据え直し、建物のゆがみを直しました。昭和45年（1970）から49年にかけても大規模な修理が行なわれました。どちらの修理も、長禅寺と檀家の人びとの努力によるものです。

さざえ堂形式の建物は、長禅寺の他には群馬県太田市の曹源寺・埼玉県児玉町の成身院・福島県会津若松市の旧正宗寺・青森県弘前市の蘭庭園の計5か所しか残っていない貴重な文化財です。

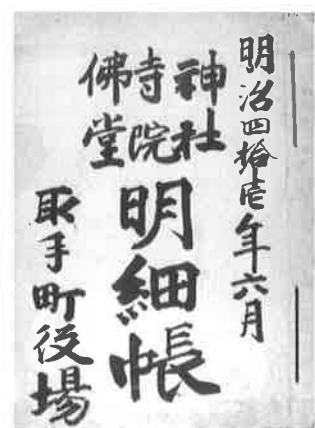
また長禅寺は、江戸時代に観覚光音禅師が開いた新四国相馬霊場八十八か所の総本場で、一番・五番・八十八番の札所があり、三世堂とともに今も多くの人のたちの厚い信仰を集めています。



長禅寺地方用録（取手市教育委員会所蔵）



明治41年6月 神社・寺院・仏堂明細帳（取手市教育委員会所蔵）

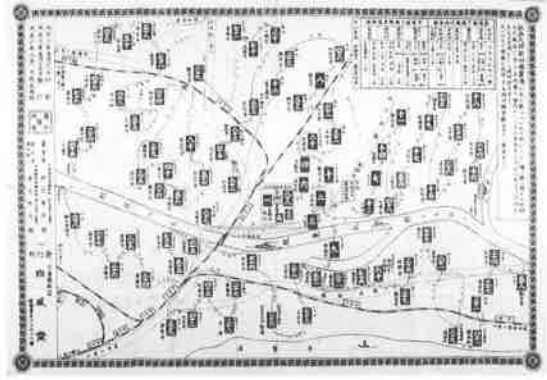


#### 5. 本多作左衛門重次墳墓の県史蹟指定

徳川家康に仕えた武将として有名な本多作左衛門重次は、晩年の数年間を取手で過ごしここで亡くなりました。重次が取手の井野で没したことは、江戸幕府が編さんした大名や旗本の系譜集である『寛政重修諸家譜』にも書かれて



大正時代頃の長禅寺三世堂(田中督人氏所蔵)

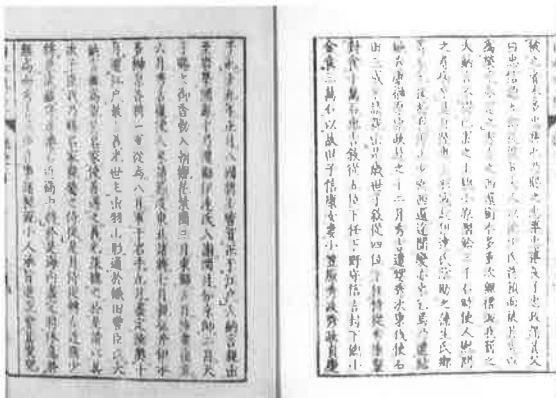


大正6年2月1日 相馬霊場八十八ヶ所手引図面(取手市教育委員会所蔵)

います。しかし新井白石が大名の家伝や由緒をまとめた『藩翰譜』には、重次は上総国北原、または小原で亡くなったと書かれています。さらに頼山陽が源平二氏の興亡から江戸幕府の成立までの武家の歴史を著した『日本外史』にも、重次は上総国小原で亡くなったと書かれています。現在千葉県袖ヶ浦市にある密蔵院の境内には、重次の墓と伝えられる宝篋印塔の一部が残っています(写真は裏表紙にあります)。

さて井野の本願寺の住職本多貞俊氏は、昭和8年(1933)に井野村の有志とともに井野村史蹟保存会を結成して、台宿の通称お墓山にあった重次の墓を県の史蹟に指定してもらおうと、一大運動を展開します。重次の墓の県史蹟指定の申請を受けた茨城県史蹟名勝天然物保存顕彰会は、昭和9年7月14日に県史蹟指定を決定し、8月3日付けの『茨城県報』で告示されました。

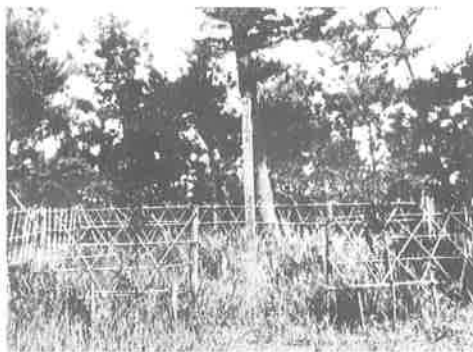
県の史蹟指定を受けた保存会は、重次の墓の整備事業に取りかかります。昭和10年1月に建てられた復興記念碑の題額の「復興記念」の文字は、徳川慶喜の次に徳川宗家を継いだ徳川家達いへさと きこうが揮毫しています。そして昭和10年11月10日には、重次の墓前で三百五十年法要が盛大かつ厳粛に執り行なわれました(現在の重次の墓の写真は、表紙にあります)。



頼山陽著の日本外史(海老原恒久家文書)



本願寺の境内に移されていた頃の本多作左衛門重次の五輪塔(本願寺所蔵) 台宿にあった重次の墓は、明治維新後は一時荒廃してしまつたようで、五輪塔などは本願寺の境内に移されていました。



地ノ管理(左白成)本多作左衛門重次 墓 御

整備される以前の台宿の本多作左衛門重次の墓の場所(本願寺所蔵)



徳川家達(所蔵・提供 松戸市戸定歴史館)



姥原万吉

(『姥原万吉翁立身譚』口絵、取手市教育委員会所蔵) 姥原万吉は井野村の出身で、正金商事株式会社を興した立志伝中の人物です。井野村史蹟保存会の理事を勤め、作左衛門の墓の復興事業に多額の寄付をしています。

# 文化財散策コース

※実際に歩く場合は地図を参考にして下さい。



## F 市之代古墳群コース (全長9.0km)

- 稲戸井駅から0.3km
- ② 糠塚古墳群 駅前通りを右折して北に向かうと左手に糠塚古墳があります。  
↓0.6km
- ③ 神明遺跡 道路の右手、畑のなかに神社がみえます。縄文晩期の遺跡です。  
↓0.8km
- ④ 向山貝塚 小貝川にせりてた台地に縄文前期住居跡が発見されました。  
↓1.5km (台地をおいて市之代を目指します)
- ⑤ 市之代古墳群 台地上に20基以上の古墳が連続して作られました。  
↓3.3km
- ⑨ 水神社 市之代から小貝川の堤防をいり水神社まで散策します。  
↓0.5km
- ⑩ 岡神社 大白山古墳 堤防を下り台地をいり進むと岡神社があります。  
↓2.0km
- 新取手駅 水田のなかの道から新取手団地をぬけて駅に向かいます。

## A 水戸街道コース (全長8.0km)

- ① 大利根橋 江戸時代取手宿の渡し場です。  
↓0.8km
- ② 取手宿本陣 薬医門が目印、本陣を務めた柴野家の住宅です。  
↓0.2km
- ③ 八坂神社 石の鳥居が目印、本殿彫刻は後藤縫之助の作です。  
↓0.8km
- ④ 新道会館 Y字路を左手に入ると小さな公園があります。  
↓0.6km
- ⑤ バス停「吉田」 バス停が目印、交差点を横断し吉田の集落に向います。  
↓1.0km
- ⑥ 吉田消防分署 藤代まで直線の水戸街道がつづきます。  
↓4.6km
- 相馬神社 右に曲ると藤代本陣跡(中央公民館)。

## E 三仏堂コース (全長4.2km)

- 稲戸井駅 常総線の踏切を越え国道294号線にです。
- ↓0.3km
- ⑭ 桔梗塚 バス停「稲戸井駅入口」脇に将門伝承にまつわる桔梗塚があります。  
↓0.5km
- ⑮ 龍禅寺三仏堂 桔梗塚を右にみて道路つきあたりには道標があります。  
↓1.8km (谷に下り、台地へ上がり、また谷を下りて団地の前にです)
- ⑯ 白山神社 団地をすぎさらに南の谷を越えると白山神社があります。  
↓0.7km
- ⑰ 藤から地蔵 バス停「山之坊入口」にあり道標になっています。  
新取手駅まで0.8km

## G 高井城跡コース (全長6.0km)

- 新取手駅 団地をすぎ水田のなかの道を抜けて西に向かいます。  
↓2.0km
- ⑩ 岡神社・大白山古墳 民家裏の石段をあがると岡神社があります。  
↓0.5km
- ⑨ 水神社 堤防に上ると岡堰に突き出した岬に小さな神社があります。  
↓1.2km
- ⑳ 高井城跡 旧道ぞいの集落に土塁や空堀の残る城跡公園があります。  
↓0.5km
- ㉑ 高源寺 天然記念物「地蔵ケヤキ」があります。  
稲戸井駅まで1.5km

## B 埋蔵文化財センターコース (全長3.0km)

- 取手駅から0.2km
- ⑧ 長禅寺 駅正面の大きな森が長禅寺の境内です。  
↓0.5km
- ② 取手宿本陣  
↓0.2km
- ③ 八坂神社  
↓0.8km
- ④ 新道会館  
↓0.6km
- ⑤ バス停「吉田」 集落中ほどでT字路を左折するとセンター。  
埋蔵文化財センターまで0.7km

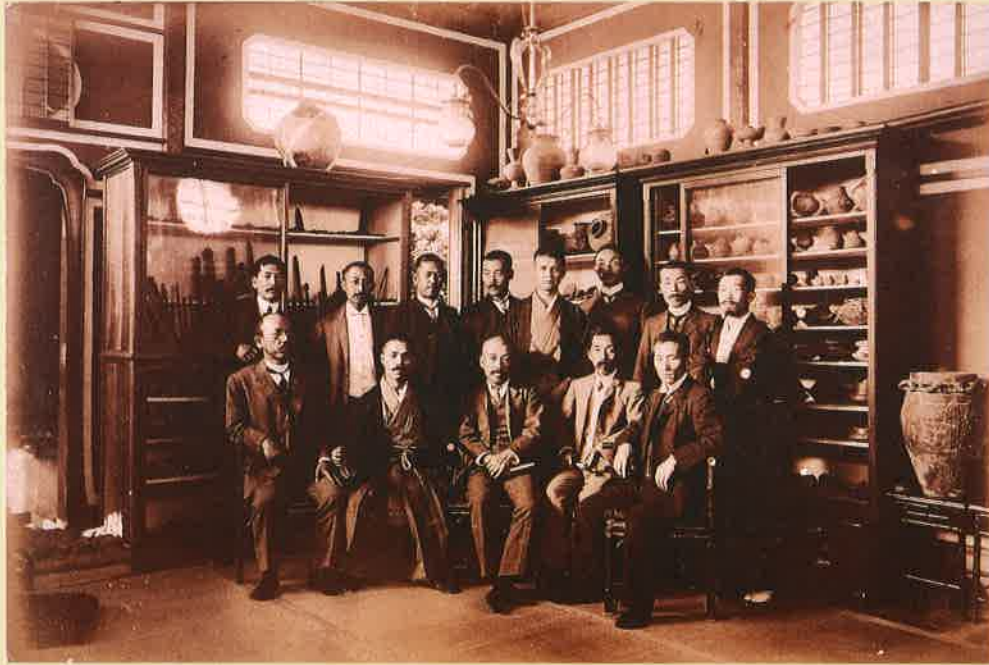
## D 中妻貝塚コース (全長5.0km)

- 取手駅から1.4km
- ⑩ 本願寺  
↓1.1km
- ⑥ 吉田消防分署 さらに利根川堤防へ向かいます。  
↓1.4km
- ⑫ バス停「平石」 堤防につづく坂のうえにバス停があります。  
↓0.6km
- ⑬ バス停「中妻」 バス停が目印、北の台地の縁に中妻貝塚があります。  
↓0.5km
- 福永寺 福永寺が、環状の中妻貝塚の中心になります。

## C 本多作左衛門コース (全長4.8km)

- 取手駅から0.2km
- ⑧ 長禅寺  
↓1.0km (坂上の火の見やぐらが目印、やぐら右手の通りをすすみます)
- ⑨ 本多作左衛門重次の墓 台宿保育所を目印に坂を登って右折します。  
↓1.1km
- ⑩ 本願寺 お墓の裏の道を降り団地の中をぬけると本願寺があります。  
↓0.7km
- ④ 新道会館 交差点から新道会館にすすみます。  
↓0.9km
- ③ 八坂神社  
↓0.2km
- ② 取手宿本陣  
取手駅まで0.7km

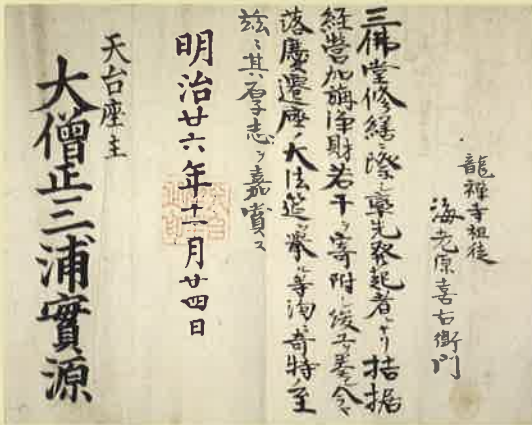




江見水蔭（後列右から4人目）と草創期の考古学者たち（所蔵・提供 板橋区立郷土資料館）  
水蔭の右側は石田収蔵、左側は柴田常恵、後列左から二人目が鳥居龍蔵、前列右から八木榮三郎、  
松村暲、一人おいて野中完一、後列右端は内山正居か。



ジェラード・グロート神父と篠遠喜彦氏の  
共著で、日本考古学研究所から発行された  
『ニッポニカ第1類 日本考古学第2巻 姥山貝塚』  
（市立市川考古博物館所蔵）  
この報告書の中に、日本考古学研究所が昭和26年に  
中妻貝塚の大規模な発掘を行なったことが書かれて  
います。



明治26年11月24日  
三仏堂修繕に際し寄付に付き感謝状（海老原千義家文書）



相馬霊場八十八ヶ所手引図面（取手市教育委員会所蔵）



千葉県袖ヶ浦市の密蔵院にある本多作左衛門重次の墓と伝えられる宝篋印塔（右）  
宝篋印塔の下の部分のみが残っています。



本願寺境内の一筆啓上の碑（右）  
本多作左衛門と「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」の簡潔に  
して要領を得た手紙の作者として有名ですが、作左衛門がこのような手紙を書いた  
という確たる史料はありません。

取手市埋蔵文化財センター第16回企画展

文化財で振り返る取手の歩み

平成17年7月19日～9月16日

編集/発行 取手市埋蔵文化財センター 制作/印刷 有限会社石山宣伝研究所